

寺田知事 「秋田内陸線存続の鍵は・・・」

「地元住民が利用する」という基礎を築けるかどうか

内陸線存続について語り合う「知事との内陸線トーク」 北秋田市と仙北市、内陸線車内で開催

厳しい経営が続いている秋田内陸縦貫鉄道の存続について寺田県知事が沿線住民と意見交換する「知事との秋田内陸線トーク」が4月25日、北秋田市と仙北市、内陸線車内で開かれ、参加した地域住民らと知事が同鉄道の存続について語り合いました。

寺田知事は、「トークを通して、内陸線存続は、地元住民が利用するという基礎を築けるかどうか」と話し、残してほしいという願いだけで難しいことを説明しました。



寺田知事が内陸線の存続について北秋田市民らと意見を交換した「知事との内陸線トーク」(交流センター会場)

● 全線開業時の半分以下にまで落ち込んだ乗車人員

同鉄道が運行する秋田内陸線の乗車人員は、少子化、過疎化により平成元年の全線開通時の107万8507人をピークに減少を続け、平成15年は毎年60万人を割り込み、18年度では50万194人と半分以下にまで落ち込みました。収支についても、毎年2.5億〜3億円の赤字が発生し、県と市町村が毎年1億円以上を補っています。

県や北秋田市、仙北市などで作る秋田内陸線再生支援協議会会長・岸

部市長)では経営建て直しのため、平成18年度から22年度までの再生計画を策定し利用促進に努めているものの、現在のところ計画を大きく下回っていることから存廃論議が続いています。

● 県議会では「20年9月頃までに方向付け」と知事

こうした状況を踏まえ、寺田県知事は、昨年9月の秋田県議会で運行区間の縮小やダイヤの大幅な見直しなど、鉄道の一部存続に向けた検討を進め、1年以内に方針を決める考えを示していました。

● 「もはや妙案を待つ段階ではない」・知事

市交流センターでのトークには、鷹巣地区の住民を中心に、岸部市長、吉岡市議会議長、「存続を考える会」や秋田内陸線サポーター、鷹巣阿仁青年会議所、市商工会、観光協会のメンバーなど約60人が参加しました。再生支援協議会からの現状説明の

あと寺田知事が「内陸線問題は沿線自治体だけでなく県全体の問題と捉えている。最も大きな課題は、まず第一に地元の住民が利用するという基礎を築けるかということ。また、安全確保の点も心配している。線路や橋梁の改修も早急に行う必要があるが、9億もの対策費がかかる。9月までに方向付けする」としたのは、もはや時間をかければ妙案が生まれるという段階ではないから、存続するとなると後には戻れない。この機会に皆さんと腹を割って話し、結論を出

して行きたい」とあいさつ。この後の意見交換では市民から、観光には不可欠な路線。内陸線を地域振興のツールとして活用すべき「阿仁地区の自治会では、各会長自ら趣意書を手に全戸を対象に回数券セットの購入を依頼するなど具体策に取り組んだ。合川、森吉、鷹巣地区でも取り組んでもらえるよう働きかけた」などとする意見や具体策が出されました。

● 「願っただけで残すことは難しい」・知事



内陸線車内で知事に意見を進言する参加者

目されるように名称変更を「全国から寄付を募り沿線に桜を植える」といったアイデアが提案されました。また、他の参加者からは各駅から降りてからの行動を広げる方法として、自転車と一緒に乗り込めるようにする要望も出されました。

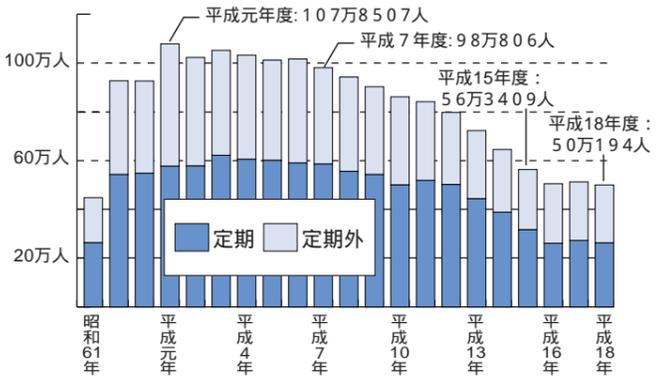
これに対して寺田知事は、「自然資源の活用などで、秋田はこれから価値観の出でくる地域だと思っている。名称変更や桜の植樹も歓迎すべき良策。しかし、その前に『基礎的な部分』を満たさないといけない」と、あくまで地元利用者の増加、赤字解消策など根幹に関わる課題の解決が先決であることを強調しました。

● 「乗客の心をつなぐ路線を守って」・ボランティア佐藤さん

交流センター会場終了後、引き続き、寺田知事や各団体の代表者等約30名は鷹巣駅からお座敷列車に乗り込み阿仁合駅まで車窓の景色を楽しみながら意見を交換しました。

秋田内陸線サポーター代表の佐藤和博さんは、車両の清掃や誘客活動、車両と沿線の美しい景色を印刷したポストカードを製作したりしながら、ボランティア活動を展開してきた。鉄道は地域の社会資本として非常に重要。乗客の心と心を繋ぐ路線として守ってもらいたい」と知事に進言しました。

秋田内陸線輸送人員の推移(昭和61年度~平成18年度)



寺田知事は、観光面だけを捉えても「残せ」という気持ちはよくわかる。しかし、赤字補てんに加え、19億の基金から安全対策費に9億をあてると基金は尽きる。廃止となった場合を考えると、施設の撤去など清算にさらに20億から30億もの費用が必要だ。こういう現状を考えると、願っただけでは残すことは難しい」と、気持ちとしては残したいもののそれが簡単に許される段階ではないことを説明。

秋田内陸線サポーターからは、「秋田県人はPRがへた。路線名を北秋田観光鉄道」とするなど全国から注